

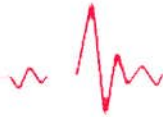


第 148 号/ふじのくに静岡県

# 消防学校ニュース

令和6年3月号

「Start 始まり」



救急科(第 33 期)

令和6年1月9日(火)、116人の学生が救急科(第33期)に入校しました。救急科のカリキュラム編成は1年前から講師依頼とともに始まります。そして多くの医師、救急救命士、関係機関の講師に講義をしていただきます。1月1日(月)に発生した能登半島地震で緊急消防援助隊やDMATが派遣される中、想定していた講義を実施できるか直前までわからない状況が続いていました。突然のカリキュラム変更等で混乱することもありましたが、派遣先でDMATの統括をされていた医師や最前線で活動される方々に講義をしていただけることは本当に貴重な時間だと改めて感じさせられました。講義準備と並行しながら能登派遣業務に従事され、講義に間に合わせていただいた講師の皆さん、本当にありがとうございました。



救急隊員の条件には、「救急業務に関する講習で総務省令で定めるものの課程を修了した者」とされています。このようなことから、他科と違い救急科はすべてのカリキュラムを履修しなければなりません。制限は緩和されましたが、依然新型コロナウイルスやインフルエンザ感染者が発生している状況であることから、入校する学生が遅れをとることなく履修できることを第一に、昨年度同様のリモート形式でスタートしました。

「Remote Lecture 講義」



リモート講義は、所属ごとに会場を用意していただきました。画面でつながる講義であることから、一人一人の表情を伺うことが難しく、学生とのコミュニケーションが取りづらい一方通行な講義でスタートしました。そんな中、御殿場の学生がリモート操作でリアクションボタンを活用して反応をしました。それがきっかけとなり、多くの会場から意思表示するよう変わりました。また、グループディスカッションでは、隣同士でしか話合っていない時間が流れる中、ホワイトボードを使い意見を話し合う富士消防の映像を見て、他会場でも寄り集まって積極的なディスカッションが行われました。熱海消防は、リモート期間中常に表情がわかるようカメラを顔に近づけ講義に臨む姿勢を見せてくれていました。そんな学生たちの取り組みが雰囲気を変え、積極的に質問するなど「学びたい」そんな気持ちを感じられるようになりました。



グループディスカッション

# 「Practice 実習」



2月13日（火）～2月22日（木）は、消防学校に入寮し実科訓練を中心とした講義が行われました。観察、資器材の取扱い、BLS（一次救命処置）など基本的な手技訓練から、JPTEC（病院前救護外傷教育の標準プログラム）や内因性シミュレーションの応用訓練まで、様々な講義が行われました。講義には、各消防本部から講師として来校していただき訓練を進めていきましたが、座学で学んだ知識を振り絞り、講師にアドバイスを受けながら積極的に訓練に臨んでいました。



## （担当教官から）

救急は難しい。救急科に入校したほとんどの学生が抱いていた気持ちです。所属推薦で入校した者、救急救命士を目指すため入校した者、様々な経緯で入校し、この救急科へ臨むモチベーションも様々であったと感じます。市民は、医療機関を選んでも救急隊は選べません。地域によって救急隊の質に格差があってはなりません。市民の期待に応えられる水準に到達できることを目標に、平等に与えられた学びの時間を、学生たちは研修の目的を考え、個々に目標を掲げ取り組んでいました。

やっぱり救急は難しい。研修を終えるも多くの学生が口にしていましたが、「救急の重要性を知った」「もっと勉強しなければならないと思った」と個々の救急に対するマインドに大きな変化を感じました。この修了はスタートラインです。学んだ知識やスキルに磨きをかけ、各々の武器として発揮してもらえればと思います。皆さんが活躍されることを期待しています。

教務課主査 永田 裕司（菊川市消防本部から派遣）

## ＝消防職員特別教育実践的大規模災害対応講習（第6回）＝

令和6年2月7日（水）から2月9日（金）まで、「消防職員特別教育実践的大規模災害対応講習」を実施し、県内14消防本部（局）から18人が参加しました。

本講習は、大規模災害発生時において必要な、情報収集能力及び指揮能力を習得するとともに、的確な安全管理の下、円滑に活動が遂行できる専門的知識、技術を習得することを目標に実施されました。



グループワーク風景（テロ災害対応）



訓練施設を使用した講義（土砂災害対応）



図上訓練風景（地震災害）



受講学生

### （担当教官から）

大規模災害発生時に大きな力となる緊急消防援助隊に関して、総務省消防庁や過去の災害発生地の消防本部から講師を招聘し、その制度理解や活動事例から教訓を学びました。

また、伊豆半島での地震災害を想定した図上訓練や、NBC災害の最新の動向や教育事例について学びました。

講義後、積極的に質問する姿や互いに情報交換する場面が多くみられ、各自が高い意識で講習に取り組んでいると感じました。

本講習での学びと受講生のつながりが今後も継続し、各所属において活かされることを願います。

教務課主査 吉瀬 大介（富士山南東消防本部から派遣）

# 消防職員専科教育 予防査察・危険物科〈第8期〉

# 火災予防は、 人命救助の最前線

2月28日（水）から3月15日（金）までの13日間、専科教育予防査察・危険物科を開催し、県内16消防本部から42人が参加しました。平成28年度に「予防査察科」と「危険物科」を発展的に統合し、今回で第8期を迎えました。この課程での教育到達目標は、査察・危険物行政の現状と課題を理解し、的確な査察要領の習得、違反対象物に対する是正指導ができること。また、危険物業務に関する専門的な知識及び技術を習得することです。

そのために、県内外から予防業務に専従している消防職員や、消防設備に精通している民間企業、危険物化学の大学教授。また、消防業務のDX化を推進していく上で一助となる講師を招き、幅広く専門的な教育を実施しました。



講義の様子(グループワーク)



講義の様子



避難設備実習



危険物燃焼実験



査察実習



通常点検

(担当教官から)

本教育を通じて、私から学生に強くお願いしたことは、教育中に多くの「気付き」を見つけ出し、業務遂行に対するきっかけとなり、モチベーション向上となること、そして修了後、各所属の通常業務で行動に移すことです。違反処理についての講師の方々からは、「火災予防は、人命救助の最前線である」と講義中に熱いメッセージを送っていただきました。学生は、今後の違反是正指導に対する覚悟と使命感ある行動を後押ししていただいたことと思います。

本教育期間を経て、気持ちが変わり、行動が変わる職員が1人でも多く出ることを願っています。1人1人の前向きな気持ちと行動が災害を未然に防止し、安心して安全なまちづくりにつながっていきます。

最後に、私自身もこの期に出会えた学生の皆様から多くの「気付き」をいただきました。

また、教育に御協力いただきました講師の皆様からも多くの「気付き」をいただき、誠にありがとうございました。今後も私自身精進すると共に、学校教育に御理解・御協力のほどよろしくお願いいたします。

教務課主査 水野 清人 (磐田市消防本部から派遣)

# 消防大学校レポート 幹部科（第76期）



指揮シミュレーション訓練



実火災体験型訓練



多数傷病者対応指揮訓練



全国から集まった同期学生

令和6年1月15日（月）から3月1日（金）まで、消防大学校の幹部科（第76期）に入校しました。

消防大学校は、総務省消防庁が設置する国の機関で、消防関係者に対し各種消防防災等に関する高度な知識、技術を習得するために教育を行っています。

幹部科では、消防行政全般に関する全国的な動向や消防関係法規、実務研究など幹部職員として組織運営に必要な幅広い知識を学びました。

また、現場指揮能力を養うため、各種災害現場を想定した部隊運用訓練・指揮シミュレーションや多くの人員や車両を用いた大規模で実践的な多数傷病者対応指揮訓練も行いました。

教育期間中、貴重な体験や経験を通し多くの知識・技術を得ることができました。それらを消防学校教育に還元できるよう努めて参ります。

教務課主査 山口 知宏（浜松市消防局から派遣）

# 消防大学校レポート

## 予防課（第115期）

FIRE AND DISASTER MANAGEMENT COLLEGE  
PREVENTION  
COURSE 115TH  
From January 17 to March 7, 2024



### 研修の目的

「予防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させるとともに、教育指導者等としての資質を向上させる。」

令和6年1月17日（水）から3月7日（木）まで、消防大学校予防科（第115期）に入校しました。

講義では、予防の人材育成について多くの時間が割かれていました。人材育成は一過性のものでなく、組織に組み込んだシステム化が必要だと感じました。経験豊富なベテランが退職している中、システム化していなければ優秀な人材を継続的に育てていくことは困難です。消防学校がその役割の一端を担うことはもちろんですが、各所属においても階級や経験年数に応じた教育が必要だと強く思いました。

また、全国から集まった学生との交流は、予防について見つめ直す良いきっかけとなりました。消防は市民のため、与えられた権限を積極的に行使しなければならないと改めて思いました。

今後も自己研鑽に努め、研修を通して学んだ知識を消防学校教育、そして所属に還元できるよう励んで参ります。

教務課主査 鈴木 敏弘（富士市消防本部から派遣）

## 離任教官表彰状授与式

## 厳しい教育訓練、ありがとうございました

令和6年3月22日（金）この3月に所属消防本部（局）へ帰任する3人の教官の「離任教官表彰状授与式」を行いました。学校長から、県内の消防職員や消防団員等の指導育成に尽力されたことに対し、表彰状が授与されました。

離任教官の皆様、本当にありがとうございました。県内の消防力向上のために、常に全力で、そして真摯に取り組んでいただきましたことを感謝いたします。

新天地においては、消防学校で培った技術や経験、大きな人間力を十二分に発揮し、所属の消防職員のお手本として頑張っていたいただきたいと思います。皆様の御健勝をお祈り申し上げます。



写真右から

望月 竜之介 教官

（志太広域事務組合志太消防本部から派遣）

吉瀬 大介 教官

（富士山南東消防本部から派遣）

山田 友也 教官

（静岡市消防局から派遣）

お疲れ様でした！



### 離任教官からのコメント

ここでの3年間、何かを教える立場の教官というよりも、多くの人やモノの間で教育課程運営のため奔走し、その中でたくさんの方のことを学ばせていただいたということ強く感じています。今後は一消防士として、ここでの学びを実践して行ければと思います。

教官在任中、消防学校での教育訓練に御尽力いただいた県内外の消防職団員の皆様や多くの外部講師の方々に感謝申し上げます。

教務課主査 吉瀬 大介（富士山南東消防本部から派遣）

私が新人職員として、ここ消防学校で学んだのが二十数年前。今でも当時の仲間や教官方、過酷だった訓練の情景が鮮明に頭に浮かびます。立場が変わり、教官として3年間駆け抜けてきましたが、指導方針で貫いたことは、当時と変わらぬ熱意と規律を今の学生に伝えることでした。時代が変遷しても、消防人としての姿勢は不変です。ここは、原点回帰し姿勢を正して真摯に学ぶ、特別な場所なのだと改めて認識しました。初志貫徹、ありがとうございました。

教務課主査 山田 友也（静岡市消防局から派遣）

3年前、憧れであった教務服の袖を初めて通した時に全身鳥肌が立ったことを今でも覚えています。振り返ってみると、コロナに翻弄された日々でありました。大変な時代のなか、最善の教育が行えるよう教官みんなで考え、工夫しながらの学校運営に携われたことは私にとって全てが財産です。派遣期間中に出会った全ての方々に感謝申し上げます。3年間ありがとうございました。

教務課主査 望月 竜之介（志太広域事務組合志太消防本部から派遣）

## 三沢校長から一言

冷たい菜種梅雨の今日この頃、3月もいよいよ最終週となり、人事異動の季節になりました。

今年度、県内消防本部の消防長クラスで退職・異動の区切りを迎えられるのは、下田・井上昌志氏、熱海市・長津義守氏、富士山南東・羽田浩二氏、御殿場市小山町・勝間田誠司氏、富士市・清勇夫氏、富士宮市・鈴木英之氏、志太・大橋充氏、御前崎市・山崎健氏、掛川市・平井良宏氏とっております。

新型コロナウイルスによる救急搬送の急増、熱海の土砂災害、台風による大規模な浸水・断水、そして間もなく退職というところで能登半島の震災への職員派遣など、近年だけみても苦労続き、長い消防人生も山あり谷ありだったと拝察いたしますが、ご卒業おめでとございます。

消防に残る方、市役所に再任用になる方、とりあえずのんびりする方など、今後進む道はさまざまと聞いておりますが、健康には十分留意され、ますますのご活躍をお祈りします。引き続き消防行政へのご指導をよろしくお願いします。

私は消防学校長2年目に入ります。ここまで1年間ありがとうございました。引き続き情報発信に努めますので「消防学校ニュース」にお付き合いよろしくお願いします。

さて、世界一野球が上手い男・大谷選手の通訳の野球賭博が大きな話題になっています。強豪チームに移籍し、かわいい嫁ももらって順風満帆な大谷選手につまらないキズがつかなければいいですね。それにしても、年収の何十倍という借金をするとは考えられません。私は競馬好きですが、小遣いの範囲内でたしなむ程度です。地方競馬は詳しくないので知りませんでしたが、先日レース中に落馬事故で亡くなった高知所属の塚本雄大騎手は静岡県出身で、兄弟5人のうち4人が騎手とのこと。雄大騎手のご冥福をお祈りします。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索